

ひたちなか市森林整備計画変更計画書

計画期間 自 令和 2年4月 1日
至 令和12年3月31日

令和4年3月28日

茨城県

ひたちなか市

目 次

I	伐採，造林，保育その他森林の整備に関する基本的な事項	・・・ 1
1	森林整備の現状と課題	
2	森林整備の基本方針	
3	森林施業の合理化に関する基本方針	
II	森林の整備に関する事項	
第1	森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）	・・・ 3
1	樹種別の立木の標準伐期齢	
2	立木の伐採（主伐）の標準的な方法	
3	その他必要な事項	
第2	造林に関する事項	・・・ 4
1	人工造林に関する事項	
2	天然更新に関する事項	
3	植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項	
4	森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準	
5	その他必要な事項	
第3	間伐を実施すべき標準的な林齢，間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準	・・・ 9
1	間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法	
2	保育の作業種別の標準的な方法	
3	その他必要な事項	
第4	公益的機能別施業森林の整備に関する事項	・・・ 11
1	公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業の方法	
2	木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法	
3	その他必要な事項	
第5	委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項	・・・ 14
1	森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大に関する方針	
2	森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大を促進するための方策	
3	森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項	
4	森林経営管理制度の活用に関する事項	
5	その他必要な事項	
第6	森林施業の共同化の促進に関する事項	・・・ 14
1	森林施業の共同化の促進に関する方針	
2	施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策	
3	共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項	
4	その他必要な事項	

第7	作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項	・・・15
1	効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムに関する事項	
2	路網の整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項	
3	作業路網の整備に関する事項	
4	その他必要な事項	
第8	その他必要な事項	・・・16
1	林業に従事する者の養成及び確保に関する事項	
2	森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項	
3	林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項	
III 森林の保護に関する事項		
第1	鳥獣害の防止に関する事項	・・・16
1	鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法	
2	その他必要な事項	
第2	森林病虫害の駆除及び予防、火災の予防その他森林の保護に関する事項	・・・16
1	森林病虫害等の駆除及び予防の方法	
2	鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項は除く。）	
3	林野火災の予防の方法	
4	森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項	
5	その他必要な事項	
IV 森林の保健機能の増進に関する事項		
1	保健機能森林の区域	・・・17
2	保健機能森林の区域内の森林における造林、保育、伐採その他の施業の方法に関する事項	
3	保健機能森林の区域内における森林保健施設の整備に関する事項	
4	その他必要な事項	
V その他森林の整備のために必要な事項		
1	森林経営計画の作成に関する事項	・・・18
2	生活環境の整備に関する事項	
3	森林整備を通じた地域振興に関する事項	
4	森林の総合利用の推進に関する事項	
5	住民参加による森林の整備に関する事項	
6	森林経営管理制度に基づく事業に関する事項	
7	その他必要な事項	

I 伐採，造林，保育その他森林の整備に関する基本的な事項

1 森林整備の現状と課題

本市は，茨城県の中央部からやや北東に位置し，東は太平洋に面して約13kmの海岸線，南は那須岳を源流とする那珂川を有している。

地形は，太平洋と那珂川下流域に位置する海拔約7m前後の沖積層の低地地区と阿武隈山系から南東に緩やかに傾斜している那珂台地と呼ばれる海拔約30m前後の起伏の少ない平坦な洪積層の台地地区に分けられる。

本市の面積は，東西約13km・南北約11kmに広がり総面積は9,996haで，森林面積は605.43haとなっている。樹種としては天然マツ，クヌギ，その他の広葉樹からなり，人工林はスギ，マツ，その他の針葉樹となっている。

森林構成は，人工林149ha，天然林450ha，竹林その他6haとなり森林比率は6.1%である。

現在，森林の持つ水源かん養，土砂の流出・崩壊防止及び生活にうるおいを与える公益的機能の重要性はますます高まってきているが，本市の森林は，地形が比較的平坦であるため開発により，年々減少傾向にある。

これらを踏まえ，本市では環境・景観資源としての森林の役割を重視し，森林の保全を図ることとする。

2 森林整備の基本方針

(1) 地域の目指すべき森林資源の姿

森林の整備及び保全に当たっては，森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるため，生物多様性の保全及び地球温暖化の防止に果たす役割並びに近年の地球温暖化に伴い懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化も考慮しつつ，適正な森林施業の実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進する。

これらを実現していくため，地域の森林の内容並びに森林に関する自然条件及び社会的要請を総合的に勘案の上，重視する機能に応じた森林の区分を「水源涵養機能」^{すいげんかんようきのう}，「山地災害防止機能／土壤保全機能」，「快適環境形成機能」，「保健・レクリエーション機能」，「文化機能」，「生物多様性保全機能」，「木材等生産機能」と位置づけた森林整備を推進し，望ましい森林資源の姿に誘導するよう努めるものとする。

(2) 森林整備の基本的な考え方及び森林施業の推進方策

ア 「水源涵養機能」における森林整備

森林並びに地域の用水源として重要なため池，湧水地及び溪流等の周辺に存する森林は，水源涵養機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

イ 「山地災害防止機能／土壤保全機能」における森林整備

土砂の流出，土砂の崩壊の防備その他山地災害の防備を図る必要のある森林は，山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

ウ 「快適環境形成機能」における森林整備

市民の日常生活に密接な関わりを持つ里山等であって，騒音や粉塵等の影響を緩和する森林及び森林の所在する位置，気象条件等からみて風害等の気

象災害を防止する効果が高い森林は、快適環境形成機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

エ 「保健・レクリエーション機能」における森林整備

観光的に魅力ある自然景観や植物群落を有する森林、キャンプ場や森林公園等の施設を伴う森林など、市民の保健・教育的利用等に適した森林は、保健・レクリエーション機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

オ 「文化機能」における森林整備

史跡、名勝等の所在する森林や、これらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林は、潤いある自然景観や歴史的風致を構成する観点から、文化機能の維持増進を図る森林として整備及び保全を推進することとする。

カ 「生物多様性保全機能」における森林整備

全ての森林は多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与している。このことを踏まえ、森林生態系の不確実性を踏まえた順応的管理の考え方にに基づき、時間軸を通して適度な攪乱により常に変化しながらも、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されていることを目指すものとする。

キ 「木材等生産機能」における森林整備

林木の生育に適した森林で、効率的な森林施業が可能な森林は、木材等生産機能の維持増進を図る森林として整備を推進することとする。

3 森林施業の合理化に関する基本方針
特になし

II 森林の整備に関する事項

第1 森林の立木竹の伐採に関する事項（間伐に関する事項を除く。）

1 樹種別の立木の標準伐期齢

水戸那珂地域森林計画に定める「立木の標準伐期齢に関する指針」に基づき、次のとおり定める。

地域	樹種					
	スギ	ヒノキ	マツ	その他 針葉樹	クヌギ	その他 広葉樹
本市全域	45年	50年	40年	40年	15年	15年

標準伐期齢は、地域を通じた立木の伐採（主伐）の時期に関する指標として定めるものであるが、標準伐期齢に達した時点での森林の伐採を促すためのものではない。

2 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

立木の伐採のうち主伐は、更新（伐採跡地（伐採により生じた無立木地をいう。以下同じ。）が、再び立木地となることをいう。以下同じ。）を伴う伐採であり、その方法については、以下の皆伐又は択伐とする。

皆伐： 皆伐は、主伐のうち択伐以外のものとする。皆伐に当たっては、気候、地形、土壌等の自然条件及び公益的機能の確保の必要性を踏まえ、適切な伐採区域の形状、1箇所当たりの伐採面積の規模及び伐採区域のモザイク的配置に配慮し、伐採面積の規模に応じて、少なくともおおむね20ヘクタールごとに保残帯を設け適確な更新を図ることとする。

択伐： 択伐は、主伐のうち、伐採区域の森林を構成する立木の一部を伐採する方法であって、単木・帯状又は樹群を単位として伐採区域全体ではおおむね均等な伐採率を行い、かつ、材績に係る伐採率が30%以下（伐採後の造林が人工造林による場合にあつては、40%以下）であるものとする。

択伐に当たっては、森林の有する多面的機能の維持増進が図られる適正な林分構造となるよう一定の立木材積を維持するものとし、適切な伐採率によることとする。

なお、立木の伐採の標準的な方法を定めるに当たっては、以下の（1）～（5）に留意する。

（1） 森林の生物多様性の保全の観点から、野生生物の営巣等に重要な空洞木について、保残等に努める。

（2） 森林の多面的機能の発揮の観点から、伐採跡地が連続することのないよう、伐採跡地間の距離として、少なくとも周辺森林の成木の樹高程度の幅を確保する。

（3） 伐採後の適確な更新を確保するため、あらかじめ適切な更新の方法を定め、その方法を勘案して伐採を行うものとする。特に、伐採後の更新を天然更新による場合には、天然稚樹の生育状況、母樹の保存、種子の結実等に配慮する。

(4) 林地の保全，落石等の防止，風害等の各種被害の防止，風致の維持等のため，溪流周辺や尾根筋等に保護樹帯を設置する。

(5) 上記(1)～(4)に定めるものを除き，「主伐時における伐採・搬出指針の制定について」(令和3年3月16日付け2林整整第1157号林野庁長官通知)のうち，立木の伐採方法に関する事項を踏まえることとする。

3 その他必要な事項
該当なし

第2 造林に関する事項

1 人工造林に関する事項

(1) 人工造林の対象樹種

水戸那珂地域森林計画の「人工造林の対象樹種に関する指針」に基づき，次のとおり定める。

樹種の選定に当たっては，この地域の立地条件，立木の生育状況特性及び経営上有利なものを考慮して，適地適木により，スギ・ヒノキ・マツ等を主な造林樹種とする。苗木の選定については，少花粉スギ等の花粉症対策に資する苗木の増加に努めることとする。

また，松くい虫被害跡地の造林については，経営目的及び自然条件に合った樹種を造林樹種として選定するものとする。

さらに，広葉樹の植栽あるいは萌芽による天然更新については，自然条件，前生樹種，既往の文献等を考慮し，経営目的に合った樹種を優先して選定するものとする。

人工造林の対象樹種	スギ，ヒノキ，マツ，クヌギ，ケヤキ，ナラ，カエデ
-----------	--------------------------

(注) 上記以外の樹種を植栽する場合は，林業普及指導員又はひたちなか市農政課に相談すること。

(2) 人工造林の標準的な方法

ア 人工造林の樹種別及び仕立ての方法別の植栽本数

樹種	仕立ての方法	植栽本数 (本/h a)
スギ	中仕立	3,000～3,500
	疎仕立	2,000～3,000
ヒノキ	密仕立	3,500～4,000
	中仕立	3,000～3,500
	疎仕立	2,000～3,000
マツ	密仕立	5,000～6,000

(注) 上記の範囲を超えて植栽する場合は，林業普及指導員又はひたちなか市農政課に相談すること。

イ その他人工造林の方法

	標準的な方法
地拵えの方法	<p>地拵えは、「全刈り地拵え」又は「筋刈り地拵え」とする。</p> <p>「全刈り地拵え」の場合、伐採木の枝条や刈り払い物を山腹の適当な場所に蓄積するか、谷側に巻落とすことにより、植え付けの際の障害物を全面的に取り除くものとする。谷筋への巻落しは、最も肥沃な沢沿い地を埋めないように留意する。</p> <p>「筋刈り地拵え」は、伐採木の枝条や刈り払い物を斜面に一定間隔に筋状に整備することにより、表土の流出防止を図るもので、平坦地または傾斜地では、作業の効率化のため、等高線上の横筋に配列し、急傾斜地では枝条の移動による損傷を防ぐため縦筋に配列するものとする。</p> <p>また、地力の低下が著しいと考えられる場所には、雑草木類や未木枝条を散布する「枝条散布地拵え」とする。</p>
植付けの方法	<p>苗木は、目的、植栽地の条件（気候・地形・地質・土壌等）に適した樹種又は品種を選定し、植え付け前は苗木を風当たりの少ない日陰に仮植し、また、仮植から植え付けまでの苗木の移動においては、根に強い光線や風を当てないようにして乾燥に十分注意する。</p> <p>植え付けは、無風の曇天又は降雨直後に行い、晴天が続いた時は降雨を待って植え付け、また、植え付け後は、苗木の根の周りを落葉やその他の地被物で覆い、乾燥を防ぐようにする。</p> <p>また、伐採後速やかに造林を行う一貫施業やコンテナ苗の導入等による低コストな再造林を推進するものとする。</p>
植栽の時期	<p>植栽時期は苗木の成長開始直前の4月上旬から4月下旬の春植えによるものとする。</p> <p>しかし、乾燥の激しい時や、農作業等との競合による植え付け労務の不足などやむを得ない場合は、秋植えとする。</p> <p>ただし、秋植えは、地上部の成長が休止し、根部の成長が続いている9月下旬から10月上旬に行うものとする。</p>

(3) 伐採跡地の人工造林をすべき期間

森林の有する公益的機能の維持及び早期回復並びに森林資源の造成を図る観点から、3に定める植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に指定されている森林の更新など人工造林による更新は、皆伐による伐採跡地については、当該伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して2年以内とする。また、択伐による伐採跡地については、伐採による森林の公益的機能への影響を考慮し、伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して、5年を超えない期間とする。

2 天然更新に関する事項

天然更新については、前生稚樹の生育状況、母樹の存在など森林の現況、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術体系等からみて、主として天然力の活用により適確な更新が図られる森林において行うこととし、次の(1)から(3)までの事項を定めるものとする。

(1) 天然更新の対象樹種

水戸那珂地域森林計画で定める「天然更新の対象樹種に関する指針」に基づき、次のとおりとする。

天然更新の対象樹種	スギ、ヒノキ、アカマツ、カヤ、モミ等
ぼう芽による更新が可能な樹種	コナラ、クヌギ、シラカシ、オニグルミ、ヤマザクラ、ウワミズザクラ、イロハモミジ、イタヤカエデ、クリ、ケヤキ、アカシデ、イヌシデ、スダジイ、タブノキ、ホオノキ、ミズキ等

(2) 天然更新の標準的な方法

ア 天然更新の対象樹種の期待成立本数

天然更新を行う際には、当該天然更新の対象樹種のうち周辺の草丈に一定程度の余裕高を加えた樹高以上のものがその本数に10分の3を乗じた本数以上の本数を成立させる。

なお、天然更新した立木の本数に算入すべき立木の高さである草丈に一定程度の余裕高を加えた樹高については、地域の植生等を勘案して定めるものとする。

樹種	期待成立本数
全樹種	1 h a 当たり10,000本以上

イ 天然更新補助作業の標準的な方法

天然更新に当たって、地表処理、刈出し、植込み、芽かきの方法その他天然更新補助作業として定めるものとし、ぼう芽更新による場合には、ぼう芽の発生状況等を考慮し、必要に応じ、芽かき又は植込みを行うものとする。

区分	標準的な方法
地表処理	ササや粗腐植の堆積等により天然下種更新が阻害されている箇所において、かき起こし、枝条整理等の作業を行う。
刈出し	ササなどの下層植生により天然稚樹の生育が阻害される箇所について行う。
植込み	天然稚樹等の生育状況等を勘案し、天然更新の不十分な箇所に必要な本数を植栽する。
芽かき	ぼう芽更新による場合、発生状況等を考慮して行う。

ウ その他天然更新の方法

伐採跡地の天然更新の完了を確認するにあたっては、茨城県天然更新完了基準を準用し、天然更新すべき立木の本数に満たない場合には天然更新補助作業又は植栽により確実に更新を図ることとする。

茨城県天然更新完了基準

項目		天然更新完了基準
後継樹の状況	後継樹の樹高	1 mかつ草丈以上
	後継樹の密度	1 h a あたり3,000本以上
	その他	ササ類や草本類の繁茂などにより更新を阻害されるおそれがない。

(3) 伐採跡地の天然更新をすべき期間

森林の有する公益的機能の維持及び早期回復を旨として当該伐採が終了した日を含む年度の翌年度の初日から起算して伐採後5年以内に更新するものとする。

3 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する事項

(1) 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の基準

水戸那珂地域森林計画で定める「植栽によらなければ適確な更新が困難な森林に関する指針」に基づき、「天然更新完了基準書作成の手引きにつ

いて」(平成24年3月30日付け23林整計第365号林野庁森林整備部計画課長通知)に示す設定例を基本に、その基準を定める。具体的には同通知の(解説編)の3の3-2の4における設定例(現況が針葉樹人工林であり、母樹となり得る高木性の広葉樹林が更新対象地の斜面上方や周囲100m以内に存在せず、林床にも更新樹種が存在しない森林)を基本とする。

(2) 植栽によらなければ適確な更新が困難な森林の所在

森林の区域	備考
該当なし	

4 森林法第10条の9第4項の規定に基づく伐採の中止又は造林をすべき旨の命令の基準

(1) 造林の対象樹種

- ア 人工造林の場合
1の(1)による。
- イ 天然更新の場合
2の(1)による。

(2) 生育し得る最大の立木の本数

茨城県天然更新完了基準に基づき、後継樹の密度を1ha当たり3,000本以上とする。

5 その他必要な事項

特になし

第3 間伐を実施すべき標準的な林齢，間伐及び保育の標準的な方法その他間伐及び保育の基準

1 間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法

水戸那珂地域森林計画で定める「間伐を実施すべき標準的な林齢及び間伐の標準的な方法に関する指針」に基づき，森林の立木の生育の促進並びに林分の健全化及び利用価値の向上を図るため，下表に示す内容を基礎とし，既往における間伐の方法を勘案して，林木の競合状態等に応じた間伐の開始時期，繰り返し期間，間伐率，間伐木の選定方法その他必要な事項を定めるものとする。

なお，間伐は，材積に係る伐採率が35%以下であり，かつ，伐採年度の翌年度の初日から起算しておおむね5年後においてその森林の樹冠疎密度が10分の8以上に回復することが確実と認められる範囲内で実施するものとする。

樹種	施業体系	間伐時期				標準的な方法
		初回	2回目	3回目	4回目	
スギ	一般中径材 生産	15 ～ 25	20 ～ 35	25 ～ 40	—	平均樹高約1.1m, 平均胸高直径約1.3cmで初回間伐を実施し, 本数間伐率約20～25%程度で3回実施する。1haあたり4,000本植栽の場合, 主伐時本数約1,200～1,500本程度となる。 中庸の密度管理を行う。
	一般大径材 生産	15 ～ 25	20 ～ 30	30 ～ 40	40 ～ 55	平均樹高約1.1m, 平均胸高直径約1.3cmで初回間伐を実施し, 成長初期は肥大成長をおさえるよう弱度の間伐(本数間伐率20～25%)で密度を保ち, 第2回目以降やや強い間伐(30～35%程度)で林木を疎立させる。 1haあたり4,000本植栽の場合, 主伐時本数は約600～700本程度となる。
	良質材 生産	15 ～ 30	20 ～ 35	—	—	10.5cm角以上で長さ3m以上の無節芯持柱材を生産目標とし, 樹幹が通直完満で断面が正円に近い木を対象とし, 平均樹高約1.1m, 平均胸高直径約1.3cmで初回間伐を実施し, 中庸より高い密度(本数間伐率25～30%)を保つよう間伐を実施する。 1haあたり4,000本植栽の場合, 主伐時本数は約2,000本程度となる。
ヒノキ	一般材 生産	20 ～ 30	25 ～ 40	35 ～ 50	—	平均樹高約1.1m, 平均胸高直径約1.5cmで, 初回間伐を実施し, やや高い密度(本数間伐率30～35%)を保てるように3回間伐を実施する。 1haあたり4,000本植栽の場合, 主伐時本数は約700～800本程度となる。

2 保育の作業種別の標準的な方法

保育の種類	樹種	実施年齢・回数																		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
下刈	スギ	1	1	1	1	1	1	1												
	ヒノキ	1	1	1	1	1	1	1												
つる切り	スギ								1			1								
	ヒノキ								1			1								
除伐	スギ										1			1						
	ヒノキ										1			1						
枝打ち	スギ						1			1			1			1			1	
	ヒノキ							1			1			1			1			1

保育の種類	樹種	実施年齢・回数			備考
		20	21	22	
下刈	スギ				雑草木類の繁茂状況に応じて適期に造林後、毎年1回以上行うものとする。下刈りの終期は、概ね7年生とし、林木の育成状況・雑草木類の繁茂状況に応じて適正に行うものとする。
	ヒノキ				
つる切り	スギ				つる類の繁茂状況に応じて行うものとする。
	ヒノキ				
除伐	スギ				除伐の対象木は、材木の生育に支障となる広葉樹・かん木類及び形質不良木とする。
	ヒノキ				
枝打ち	スギ				経営の目的・樹種の特性・地位及び地利等を考慮するものとする。
	ヒノキ			1	

3 その他必要な事項 該当なし

第4 公益的機能別施業森林の整備に関する事項

1 公益的機能別施業森林の区域及び当該区域内における施業の方法

快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

(1) 区域の設定

市民の日常生活に密接な関わりを持ち塵等の影響を緩和する森林、風害、霧害潮害等の気象災害を防止する効果が高い森林、快適環境形成機能が高い森林等であって、具体的には、都市近郊林等に所在する森林であって郷土樹種を中心とした安定した林相をなしている森林、市街地道路等と一体となって優れた景観美を構成する森林、気象緩和、騒音防止等の機能を発揮している森林等について別表1により定めるものとする。

(2) 施業の方法

施業の方法として、アに掲げる森林においては、風や騒音等の防備や大気浄化のために有効な森林の構成の維持を図るための施業を推進する。

また、アに掲げる森林については、原則として複層林施業を推進すべき森林として定めることとしつつ、複層林施業によっては公益的機能の維持増

進を特に図ることができないと認められる森林については択伐による復層林施業を推進すべき森林として定める。

ただし、適切な伐区の形状・配置等により、伐採後の林分においてこれらの機能の確保ができる森林は、長伐期施業を推進すべき森林として定めるものとし、主伐を行う伐期齢の下限について、樹種別に標準伐期齢のおおむね2倍以上の林齢とするとともに、伐採に伴って発生する裸地の縮小及び分散を図る。

アに掲げる森林の区域については、森林の施業の方法ごとに別表2により定めるものとする。

地域	樹種					
	スギ	ヒノキ	マツ	その他 針葉樹	クヌギ	その他 広葉樹
本市全域	72年	80年	64年	64年	24年	24年

2 木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林の区域及び当該区域内における施業の方法

(1) 区域の設定

当該森林の区域を別表1に定めるものとする。

(2) 施業の方法

施業の方法として、木材等林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給するため、生産目標に応じた主伐の時期及び方法を定めるとともに、植栽による確実な更新、保育、間伐等を推進することを基本とし、森林施業の集約化、路網整備や機械化等を通じた効率的な森林整備を推進すべき森林施業の方法ごとに別表2に定めるものとする。

なお、特に効率的な施業が可能な森林の区域のうち、人工林については、原則として、皆伐後には植栽による更新を行うこととする。

3 その他必要な事項

該当なし

別表 1

区分	森林の区域	面積 (h a)
水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	該当なし	
土地に関する災害の防止及び土壌の保全の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	該当なし	
快適な環境の形成の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	43, 44	24.05
保健文化機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	該当なし	
その他の公益的機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	該当なし	
木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林	該当なし	
木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林のうち、特に効率的な施業が可能な森林	該当なし	

別表 2

施業の方法	森林の区域	面積 (h a)
伐期の延長を推進すべき森林	該当なし	
長伐期施業を推進すべき森林	該当なし	
複層林施業を推進すべき森林	43, 44	24.05
複層林施業を推進すべき森林 (択伐によるものを除く)		
択伐による複層林施業を推進すべき森林	該当なし	
特定広葉樹の育成を行う森林施業を推進すべき森林	該当なし	

第5 委託を受けて行う森林の施業又は経営の実施の促進に関する事項

- 1 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大に関する方針
森林所有者の意向，林業事業体等の状況，市場の動向等を的確に把握し，相互の情報提供と活用を図ることにより，森林施業の受委託の推進を図ることとする。
- 2 森林の経営の受委託等による森林の経営の規模の拡大を促進するための方策
森林所有者（不在村を含む）等への施業の委託等森林の経営の委託の働きかけ，施業の集約化に取り組む者に対する森林の経営の受託等に必要な情報の提供，助言及びあっせん，林地の取得等の方法等，森林の施業又は経営の受託等による経営規模の拡大を促進する。
- 3 森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項
該当なし
- 4 森林経営管理制度の活用に関する事項
森林の経営管理を森林所有者自らが実行できない場合には，森林経営管理制度の活用を図り，森林所有者から経営管理の委託を受け，林業経営に適した森林については意欲と能力のある林業経営者に再委託するとともに，再委託できない森林については，森林環境譲与税を活用しつつ，市森林経営管理事業を実施することにより，適切な森林の経営管理を推進する。
- 5 その他必要な事項
該当なし

第6 森林施業の共同化の促進に関する事項

- 1 森林施業の共同化の促進に関する方針
特になし
- 2 施業実施協定の締結その他森林施業の共同化の促進方策
特になし

○森林施業協同化重点実施地区の設定計画

(単位：h a)

地区の名称	地区の所在	区域面積	対図番号
地区 該当なし	林班	h a	

- 3 共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項
特になし
- 4 その他必要な事項
特になし

第7 作業路網その他森林の整備のために必要な施設の整備に関する事項

- 1 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムに関する事項
該当なし

区分	作業システム	路網密度 (m/h a)		
		基幹路網	細部路網	合計
緩傾斜地 (0° ~ 15°)	車両系作業システム	3.5以上	7.5以上	11.0以上
中傾斜地 (15° ~ 30°)	車両系作業システム	2.5以上	6.0以上	8.5以上
	架線系作業システム		二	2.5以上
急傾斜地 (30° ~ 35°)	車両系作業システム	1.5以上	4.5 < 3.5 > 以上	6.0 < 5.0 > 以上
	架線系作業システム		5 < - > 以上	2.0 < 1.5 > 以上
急峻地 (35° ~)	架線系作業システム	5以上	二	5以上

(注) 1 「架線系作業システム」とは、林内に架設したワイヤーロープに取り付けた搬器等を移動させて木材を吊り上げて集積するシステムをいう。

2 「車両系作業システム」とは、林内にワイヤーロープを架設せず、車両系の林業機械により林内の路網を移動しながら木材を集積、運搬するシステムをいう。フォワーダ等を活用する。

3 「急傾斜地」の<>書きは、広葉樹の導入による針広混交林化など育成複層林へ誘導する森林における路網密度である。

- 2 路網の整備と併せて効率的な森林施業を推進する区域に関する事項
該当なし

3 作業路網の整備に関する事項

(1) 基幹路網に関する事項

- ア 基幹路網の作設に係る留意点
該当なし
イ 基幹路網の整備計画
該当なし
ウ 基幹路網の維持管理に関する事項
該当なし

(2) 細部路網に関する事項

- ア 細部路網の作設に係る留意点
該当なし
イ 細部路網の維持管理に関する事項

該当なし

- 4 その他必要な事項
該当なし

第8 その他必要な事項

- 1 林業に従事する者の養成及び確保に関する事項
特になし
- 2 森林施業の合理化を図るために必要な機械の導入の促進に関する事項
特になし
- 3 林産物の利用の促進のために必要な施設の整備に関する事項
特になし

Ⅲ 森林の保護に関する事項

第1 鳥獣害の防止に関する事項

- 1 鳥獣害防止森林区域及び当該区域内における鳥獣害の防止の方法
- (1) 区域の設定
該当なし
- (2) 鳥獣害の防止の方法
該当なし
- 2 その他必要な事項
該当なし

第2 森林病虫害の駆除及び予防、火災の予防その他森林の保護に関する事項

- 1 森林病虫害等の駆除及び予防の方法
- (1) 森林病虫害等の駆除及び予防の方針及び方法
松くい虫被害対策については、市の松林はかつて茨城県により「高度公益機能森林」として指定され、茨城県知事による命令防除により薬剤地上散布が実施されていた。しかし、想定以上に被害が浸潤している為、平成23年度に「地区保全林」へと指定変更され、県による命令防除は廃止となった。そのため、市としては、新たな松くい虫の拡散を防ぐ伐倒駆除をし、松くい虫の駆除を行うものとする。
- (2) その他
該当なし
- 2 鳥獣害対策の方法（第1に掲げる事項は除く。）
該当なし
- 3 林野火災の予防の方法
林野火災については、地域への入込み者に対して林野火災の予防と森林保護の啓蒙に努めるものとする。

4 森林病虫害の駆除等のための火入れを実施する場合の留意事項

森林病虫害の駆除等のため、火入れを実施する場合は、市長あてに申請し、許可が必要となる。

5 その他必要な事項

(1) 病虫害の被害を受けている等の理由により伐採を促進すべき森林

森林の区域	備考
43林班 18, 19, 21, 22, 23, 24, 25, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 72, 73, 74, 77, 81, 82小班 44林班 1, 2, 4, 5, 10, 11, 12, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 25, 26, 28, 29, 30, 31, 32, 34, 35, 39, 40, 42, 43, 44, 47, 48, 49小班	松くい虫被害

(2) その他
該当なし

IV 森林の保健機能の増進に関する事項

1 保健機能森林の区域

森林の所在		森林の林種別面積 (h a)						備考
位置	林小班	合計	人工林	天然林	無立木地	竹林	その他	
該当なし								

2 保健機能森林の区域内の森林における造林, 保育, 伐採その他の施業の方法に関する事項

該当なし

3 保健機能森林の区域内における森林保健施設の整備に関する事項

該当なし

4 その他必要な事項

該当なし

V その他森林の整備のために必要な事項

1 森林経営計画の作成に関する事項

(1) 森林経営計画の記載内容に関する事項

森林経営計画を作成するに当たり、次に掲げる事項について適切に計画に定めるものとする。

ア IIの第2の3の植栽によらなければ適確な更新が困難な森林における主伐後の植栽

イ IIの第4の公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

ウ IIの第5の3の森林の経営の受委託等を実施する上で留意すべき事項及びIIの第6の3の共同して森林施業を実施する上で留意すべき事項

エ IIIの森林の保護に関する事項

(2) 森林法施行規則第33条第1号ロの規定に基づく区域

区域名	林班	区域面積
ひたちなか東	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 20, 21, 22, 24, 27, 28, 29, 30, 31, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 45	486.75ha
ひたちなか西	10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19	118.68ha

2 生活環境の整備に関する事項

該当なし

3 森林整備を通じた地域振興に関する事項

該当なし

4 森林の総合利用の推進に関する事項

該当なし

5 住民参加による森林の整備に関する事項

(1) 地域住民参加による取り組みに関する事項

近年、森林や緑に対する住民の関心は高まりをみせつつあり、森林環境教育・健康づくりの場として、幅広い森林利用を推進するとともに、地域活動による森林の保全整備や緑の募金への協力などの取り組みを推進していく。

緑の募金活動等の緑化運動の展開により普及啓発を図るとともに、体験研修や森林ボランティア活動についての受け入れに関する情報の提供等を通じて住民参加の森林づくりを推進していく。

(2) 上下流連携による取組みに関する事項
該当なし

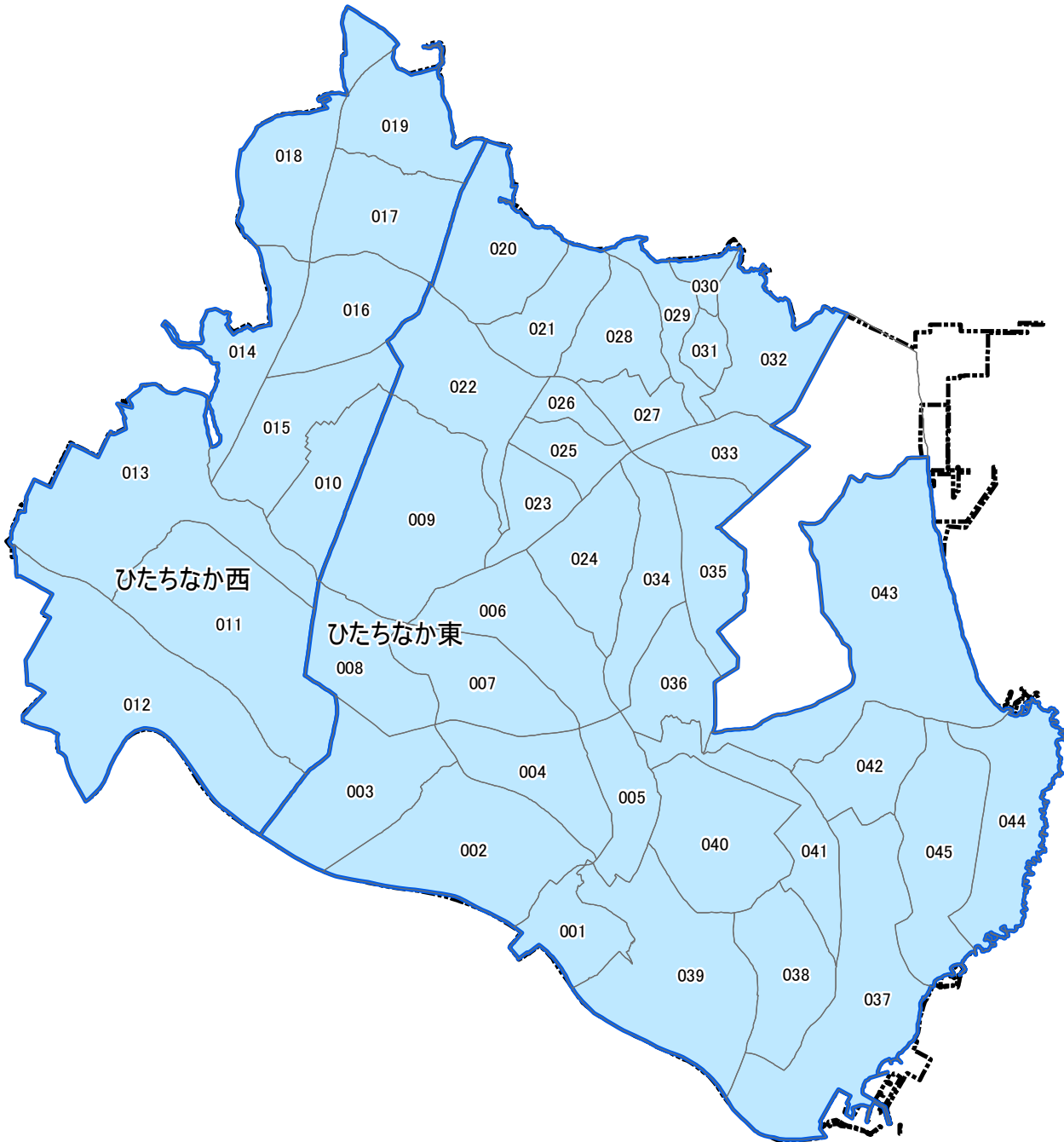
(3) その他
該当なし


6 森林経営管理制度に基づく事業に関する事項
該当なし

7 その他必要な事項
該当なし

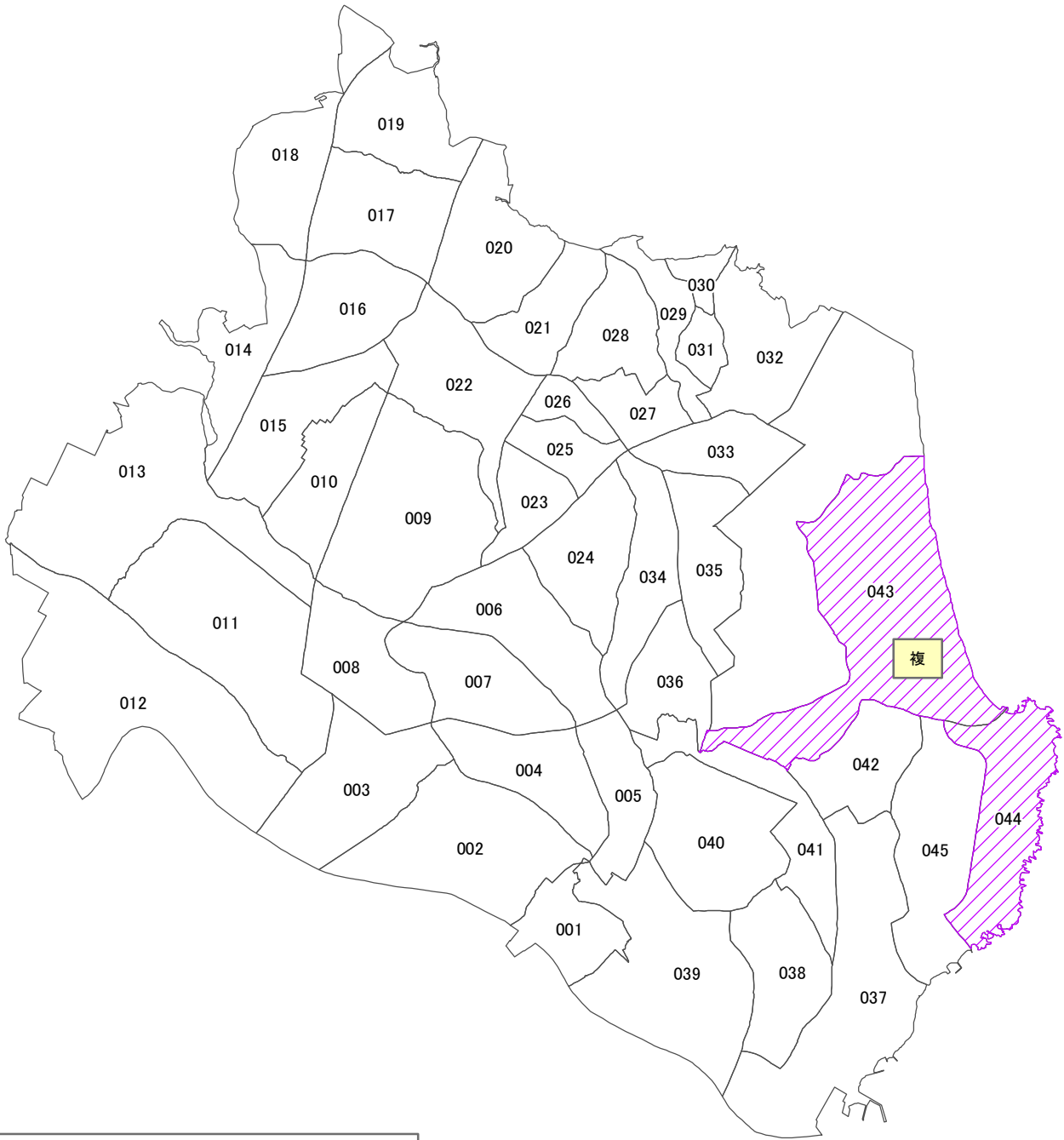
ひたちなか市森林整備計画概要図

【森林法施行規則第33条第1号ロの規定に基づく区域】



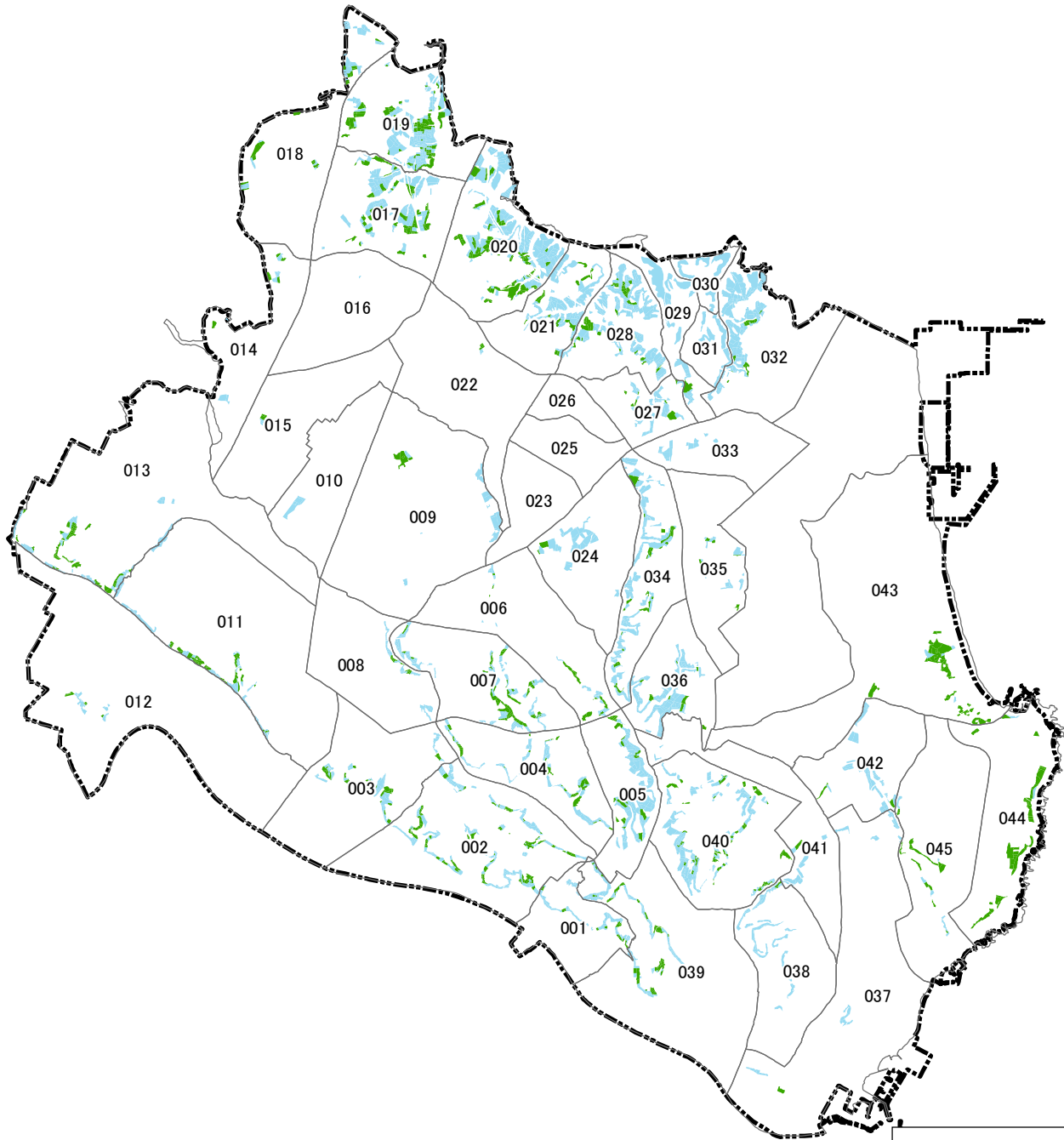
凡例	
	市町村界
	林班
	区域名 区域

ひたちなか市森林整備計画概要図【公益的機能別施業森林等】





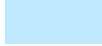
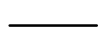
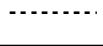


凡例	
	林班
	国有林
	公益的機能別施業森林等
	水源涵養
	土地災害
	快適環境
	保健文化
	木材生産
施業方法	
	通常
	伐期延長
	長伐期
	複層林(択伐除く)
	複層林(択伐)
	特定広葉樹

ひたちなか市森林整備計画概要図【森林資源状況】



凡例

-  市町村界
-  林班
-  国有林
-  小班(人工林)
-  小班(その他)
-  林道(既設)
-  林道(計画)

ひたちなか市の樹種別・年齢別民有林資源表

単位 面積：h a、蓄積：m3（竹林の蓄積：束）、成長量：m3

森林の種類	人天別	樹種	1 年齢級			2 年齢級			3 年齢級			4 年齢級			5 年齢級			6 年齢級			7 年齢級			8 年齢級		
			面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量
合計	人工林	スギ	0.00	0	0	0.01	0	0	0.18	11	0	0.00	0	0	0.74	83	0	0.25	33	0	0.00	0	0	7.51	1,278	1
		ヒノキ	0.00	0	0	0.00	0	0	0.11	5	0	0.00	0	0	0.00	0	0	1.79	167	6	0.32	36	1	1.09	137	3
		マツ	0.00	0	0	0.28	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.89	161	5	0.53	102	2
		その他	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		小計	0.00	0	0	0.29	0	0	0.29	16	0	0.00	0	0	0.74	83	0	2.04	200	6	1.21	197	6	9.13	1,517	6
	天然林	マツ	0.00	0	0	0.08	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		その他針	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		クヌギ	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		ザツ	0.00	0	0	21.63	521	58	5.69	182	12	0.00	0	0	0.00	0	0	8.71	617	7	0.22	15	0	42.57	3,068	14
		小計	0.00	0	0	21.71	521	58	5.69	182	12	0.00	0	0	0.00	0	0	8.71	617	7	0.22	15	0	42.57	3,068	14
小計	0.00	0	0	22.00	521	58	5.98	198	12	0.00	0	0	0.74	83	0	10.75	817	13	1.43	212	6	51.70	4,585	20		

森林の種類	人天別	樹種	9 年齢級			10 年齢級			11 年齢級			12 年齢級			13 年齢級			14 年齢級			15 年齢級			16 年齢級		
			面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量
合計	人工林	スギ	4.35	822	0	5.06	948	3	9.88	2,084	2	3.71	778	1	7.53	1,751	0	6.59	1,586	0	8.70	2,103	0	4.12	966	1
		ヒノキ	0.80	108	2	0.56	81	0	0.08	12	0	0.00	0	0	0.22	35	0	0.00	0	0	0.27	45	0	0.39	65	0
		マツ	0.00	0	0	0.00	0	0	0.23	56	0	2.61	662	4	7.86	2,089	14	5.77	1,589	8	8.24	2,297	13	7.54	2,103	12
		その他	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		小計	5.15	930	2	5.62	1,029	3	10.19	2,152	2	6.32	1,440	5	15.61	3,875	14	12.36	3,175	8	17.21	4,445	13	12.05	3,134	13
	天然林	マツ	0.00	0	0	0.00	0	0	0.16	40	0	0.00	0	0	0.18	48	0	0.77	210	1	0.00	0	0	0.00	0	0
		その他針	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0
		クヌギ	0.00	0	0	0.00	0	0	0.12	10	0	1.78	156	3	3.81	331	4	3.90	337	5	0.59	53	0	1.10	95	1
		ザツ	30.58	2,196	11	37.89	2,733	9	56.81	4,088	30	30.73	2,204	10	47.00	3,378	22	59.66	4,295	15	50.19	3,616	24	33.62	2,417	20
		小計	30.58	2,196	11	37.89	2,733	9	57.09	4,138	30	32.51	2,360	13	50.99	3,757	26	64.33	4,842	21	50.78	3,669	24	34.72	2,512	21
小計	35.73	3,126	13	43.51	3,762	12	67.28	6,290	32	38.83	3,800	18	66.60	7,632	40	76.69	8,017	29	67.99	8,114	37	46.77	5,646	34		

森林の種類	人天別	樹種	17 年齢級			18 年齢級			19 年齢級			20 年齢級			21 年齢級			合計					
			面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量	面積	蓄積	成長量			
合計	人工林	スギ	6.09	1,450	0	3.08	728	0	3.82	893	0	2.20	529	0	26.29	6,281	0				100.11	22,324	8
		ヒノキ	0.37	62	0	0.42	70	0	0.74	122	0	0.00	0	0	0.35	58	0				7.51	1,003	12
		マツ	0.96	267	0	1.87	521	3	0.82	230	1	0.39	109	0	2.97	829	6				40.96	11,015	68
		その他	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0				0.00	0	0
		小計	7.42	1,779	0	5.37	1,319	3	5.38	1,245	1	2.59	638	0	29.61	7,168	6				148.58	34,342	88
	天然林	マツ	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0				1.19	298	1
		その他針	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0				0.00	0	0
		クヌギ	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0				11.30	982	13
		ザツ	8.13	584	4	3.44	246	0	0.33	23	0	0.47	34	0	0.38	27	0				438.05	30,244	236
		小計	8.13	584	4	3.44	246	0	0.33	23	0	0.47	34	0	0.38	27	0				450.54	31,524	250
竹林																				0.39	117	0	
無立木地																				5.92	0	0	
小計	15.55	2,363	4	8.81	1,565	3	5.71	1,268	1	3.06	672	0	29.99	7,195	6				605.43	65,866	338		